
夕暮れ時の橋の上、アンタと俺と、二人きり

神風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕暮れ時の橋の上、アンタと俺と、一人きり

【Zコード】

N6891A

【作者名】

神風

【あらすじ】

ある男の再生劇です。ハートフルだと思います。ハンカチの「用意を

ある夏の日、夕暮れ時の橋の上

「どうすりつやいいんだ……」

深くため息をつき虚空の夕空を見上げた。

最愛の恋人に裏切られて以来、俺はずつとこの調子。生きる気力を失っていたんだ。

空しい孤独感と過去への未練にただ苦しめられていた。

「……ここから飛び降りて死のう……」

うん、死つしよう。

俺を裏切るだけのこんな世界にいるなんて、もつたくせんだ。

そう思って橋の上から身を乗り出した。

「…カツハツ高こな

「パパのなよ俺。これくらい高くないと死ねないだろ。

「よし…逝िरਿ

決心した。俺はこれから死ぬんだ。

「父ちゃん…最後まで親不孝な馬鹿息子で、ゴメン」

やつらがやった時だつた。

「おこ、お前。なにやつてんの?」

誰かが後ろから声をかけてきた。

(こんな大事な時に……)

構わぬ無視する。

「ちよつ……何?…まさか飛び降りるとか?…うわ~マジで?…?」

ちよつと頭にきた。

「うぬせえな、お前……俺は今から……」

そう怒鳴つて後を振り返つた時、そこにはいる男を見て俺は一瞬言葉を失つた。

「あ、ゴメン。怒つた?」

「か
か
」

「ん、何？俺の顔に何かついてる？」

「か
・
」

俺は橋の上で河童に出会った。

「役場に届けたら賞金ができるやつだーー！」

混乱のあまりツチノ口と混同してしまった。

「でね、お賣金なんて……それツチノコだらっ。」

「あ、そ……そ、うだつけ? いや、それよりもなんでこんな橋の上に河童が? ……」

「河童は三の近くに住むもんだらうがよ」

「わうだナビ! それわうだけれビモー!」の現代になんで河童がいるの? ……」

「あ? 僕ら河童が時代遅れだつてんのか?」

「あ……いやその……わうこいつ意味じやなくて……河童見るの初めてだし……今までこると想つて無かつたか? ……」

「……まあ最近はタマリカセヒナセヒナセヒガが出てきたおかげで、わうかり川のマスクシトの座から引きずり降りされたからな。マスクミの取材もからひしだし……知らなくて当然だわ

「マ…マスクの取材とかあつたんすか

「あつたり前だつづーの。『特集！川辺の水生動物』とか『専門家に聞く現代の河川敷き』とかさ。週刊メダカの学校新聞にコラムも書いてたんだぜ？」

「結構タレント性あるんですね…」

「てかお前は何やつてたの？？」

「…え？」

「INの橋の上で何やつてたの？って聞いてんの。#とか…マジで飛び降りる気だつたとか？」

「……ええ、そつなんです。今日は死のつと黙つてこいにきたんです」

「ううそ、マジでー？勘弁してよー。最近ゴリでただでさえ川が汚れてんだからさ…そこに水死体はシャレにならねーって。てか死ななくていいじゃん別に」

「あなたには分かりませんよ、俺の気持ちなんて…。一番尽くした、一番大事な人に裏切られたんですよ?どれだけ苦しいか…こんなに苦しむなら、死んだほうがマシだ」

「バカヤロウ!…」

バシーン!

河童に殴られた。

「痛つ!」

「現実から逃げてどうすんだよ！」

「なんだよ…河童が知つたふうな口を聞くなよ！お前ら河童はずつと川の中で呑気に生きてりやいいんだろけど、俺達人間は仲間に裏切られたり傷つけあつたりしながら生きなきゃならないんだよ！すごく苦しいんだよ！」

「バカヤロウ！！」

バシーン！

「痛つ！」

二
回
目
○

「お前は何も分かつてねえよ…世の中にはお前だけじゃないんだ。オケラだつてアメンボだつてミジンコだつて他の人間達だってみんな現実に苦しみながら生きてるんだ！現実から逃げてるのはお前だけなんだよ、なんでそれが分からぬんだ！」

「……」

「俺ら河童だつてそうさ…人間達が川を開発したり埋め立てたりして何回も何回も住家を追いやられた。やつと居場所を見つけても肌が緑色だとか、クチバシがついてるだとか、そんな理由で酷い差別を受けてきた…それでも必死で生きてきたんだ。例えどれだけ現実が残酷でも、例えどれだけ人に裏切られてたとしても、誰が諦めていいなんて言つたんだ？生きろよ…生き続けるよ…お前がどこの誰かなんて知らない…だけどな、誰もお前の死体なんて望んでねえんだよ！…！」

「河童…」

「お前がどれだけ苦しんだかなんて、確かに俺には分からん…でも、明日は必ずやつてくる。夜明けをつげるあの鮮やかな朝日を、自分からしててるなんて馬鹿げてるぜ」

「…河童、ゴメン。俺が馬鹿だつたよー俺、生きるよー。」

「ああー生きるー明日に走るお前の姿は、きっと輝いてるぜー。」

「ありがとう河童ーそれと、さつきはあなたと話してゴメン」

「いいんだよ、気にするな。でも次に俺の仲間に会う時は優しく声をかけてくれーあいつら、結構淋しがりやなんだ」

「うふ…わかつたよ…河童、俺、お前に会えてよかつた」

「ハハ…照れるな。そんな大したもんじゃないって…。じゃあ、俺は仕事があるから、これで…」

「ああ、気をつけなー！」

河童が歩き去るのを見る後姿を見て、俺は最後にもう一言話しかけた。

「… なあ 河童、 最後に質問していいかな?… どつても大事なことなん
だけど」

「いいぜ、 何だ?」

「テメエ、 その背中のジッパーなんだ」

「……………背^{アキ}」レ^アだよ

「まかしきれてなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6891a/>

夕暮れ時の橋の上、アンタと俺と、二人きり

2010年10月12日03時52分発行